

大槌ジビエソーシャルプロジェクト（岩手県上閉伊郡大槌町）

「害獣」を「まちの財産」に。市民・企業・行政のパートナーシップによる社会的課題解決を目指す

【取組内容】



- これまで助成金を使用し「害獣」として駆除・処分されてきたニホンジカを「まちの財産」（山林資源）として有効活用することで、社会的・経済的価値を生み出し、ジビエを軸とした各種新規事業を創出。
- 市民・企業・行政が協働の上、捕獲から加工、流通、ツーリズム、次世代育成において一貫した「大槌ジビエサイクル」を構築し、持続可能なまちづくりを推進。
- 同様の課題を抱える小規模自治体へノウハウを共有することで新たなパートナーシップを創出し、交流人口を拡大。

【評価ポイント】

- 汎用性のある地域課題を官民連携による多様な関係者の下で多角的に取り組み、地方創生に寄与。

SDGs実施指針における実施原則（本アワード評価基準）

普遍性	官民協働で持続可能な地域産業開発を行う本取組は、国内外における小規模自治体のロールモデルとなり得る。
包摂性	市民・企業・行政の分け隔てない多様な関係者とともに合意形成を図るほか、多様な世代を対象として人材育成事業を展開。
参画型	地域住民、行政、地域内外の事業者等、広範な関係者と協働して本取組を推進。
統合性	経済・社会・環境問題に深く関与する獣害被害を、ジビエの活用による複数事業の創出によって「価値」へと転換。
透明性と説明責任	HPやSNSの活用及びメディアと連携した広報を展開。

